

ラフバラ大学の体育・スポーツ科学部門の紹介

藤島, 和孝
九州大学健康科学センター

<https://doi.org/10.15017/425>

出版情報：健康科学. 13, pp.189-192, 1991-02-08. 九州大学健康科学センター
バージョン：
権利関係：

ラフバラ大学の体育・スポーツ科学部門の紹介

藤 島 和 孝

Introduction to the Department of Physical Education and Sports Science in Loughborough University

Kazutaka FUJISHIMA

はじめに

筆者は、文部省の在外研究員（短期）として、1989年8月18日から同年10月17日までの2か月間、温熱生理学に関する研究の目的で、フランス、ドイツ連邦共和国、スイスおよび連合王国を訪問する機会を得た。本稿では、研修期間後半の9月18日から訪問した主たる滞在地である連合王国のラフバラ大学について紹介する。

1. ラフバラ大学の概要

ラフバラ大学は、Loughborough University of Technonology が正式名称であるが、連合王国では、一般に、Loughborough University と呼ばれている。この大学は、ロンドンから特急列車で北西部へ約90分、人口約5万人のLeicestershireのLoughboroughに位置している(図1)。また歴史的には、1909年にCollegeとして発足し、1966年にはUniversity Charterに認可されている。現在は、Engineering(5部門)、Pure and Applied Science(5部門)、Human and Environmental Studies(9部門)およびEducation and Humanities(4部門)の4学部、23部門から構成されている。学生数は約6,000名、このうち海外からの留学生は約650名、教官数は約500名である。広大で緑地の多い静かな環境に恵まれたキャンパス(216エーカー：約87万㎡)内には、大学としてのあらゆる施設設備が完備されている。特に留学生や研究者用の宿泊施設ならびに図書館の文献検索システムの充実は、日本の大学とは比較にならないものがあつた。

2. 体育・スポーツ科学部門

筆者が主に滞在した School of Human and Environmental Studies の体育・スポーツ科学部門は、50年の歴史をもち、連合王国でも有数の専門機関である。

この部門には、約150名が入学し、現在では男女の比率がほぼ半々である。3年間の Undergraduate course 卒業生の約10%が Postgraduate course に進み M.Sc. を取得し、そのうちの2～3名が Ph.D.を目指している。Undergraduate course の主な教授内容は、表1で示すとおりである。また、この部門の卒業・修了生は、教職をはじめ、銀行、保険会社、会計職、社会奉仕関係、軍隊などの分野で活躍している。



図1 ラフバラ大学の位置



写真1 ラフバラ大学のキャンパス

この部門には、体育・スポーツに関する有名な研究者が所属している。参考までに、主なスタッフとその研究課題を紹介する(表2)。この他にも、運動生理学の M.E.Nevill, スポーツ社会学の J.McGuire, ラグビーの R.J.Hazeldine, サッカーの F.M.Holliday がいる。

私は、主にこの部門の Head をしている運動生理学教室の C.Williams 教授のもとで研修を行なった。同教授は、運動時の Carbohydrate loading の効用に関する研究では、世界的権威者といわれており、体育・スポーツに従事する多くの研究者や指導者を輩出している。また、同教授のもとでは、持久性運動時の栄養摂取の効果、歩行運動の体力向上に及ぼす影響、スポーツマンの筋肉代謝とパフォーマンスなどを主なテーマとし、運動生理学に関する基礎的および応用的研究を精力的に行なっている。これらの成果は、Eur. J. Appl. Physiol.をはじめ種々の国際誌に発表されている。私自身は、運動時の体温調節に関する研究を専門領域としていることから、Williams 教授の運動時の栄養摂取には、非常に興味をもっている。彼は、逆に運動時の発汗と体温に強い関心を示してくれた。今後は、お互いの専門領域を理解し、さらに相互の研究の発展をはかることで合意し、その結果、共同研究の糸口をつかむことができた。

ところで、私の滞在中、世界的に有名な運動生理学者であるアメリカ合衆国の Ball State 大学の D.L.

表1 Undergraduate course における教授科目

Year One	Functional Anatomy & Biology of Physical Activity
	Biomechanics of Sport I
	Introduction to Psychology
	Skill Acquisition I
	Sports Technology I
	Subsidiary Subject I
	Subsidiary Subject II
	Economics & Management of Human Resources
Year Two	Introduction to Research Methods
	Measurement & Evaluation
	Exercise Physiology I
	Biomechanics of Sport II
	Skill Acquisition II
	PE, Sport & Society
	Sociology of Leisure & Recreation
	Philosophical Issues I
	Subsidiary Subject
	Economics & Management of Human Resources
	Financial Management
Sports Technology I	
Year Three	Research Methods
	Exercise Physiology II
	Biomechanics of Sport III
	Psychosociological Studies
	Comparative Studies
	Electives
	Philosophical Issues II
	Recreation Technology I
	Recreation Technology II
	Marketing
	Operational Research
Sports Technology II	
Dissertation	

表2 体育・スポーツ科学部門の研究者と研究課題

研究者	研究課題
Almond, L.	Translating on Innovation from Theory to Practice.
Bunker, D.	A Different Approach to Personality Research in Physical, Sport and Recreation : An Introduction to a Theory and its Method.
Glypis, S.	Recreation Provision and the Unemployed.
Greenwood, J. T.	A Different Role for Sport : The Material Arts and Enlightenment.
Hardman, A. E.	Limitations of Oxygen Transport in Man.
Hardy, C. A.	The Development of Female Competitive Swimming in Great Britain.
Jones, J. G.	Stress in Sport : Relationships between Multidimensional Anxiety, Self-Confidence and Performance.
Jones, R. E.	Physical Education in Singapore : Background and Development.
Kerwin, D. G.	Interpreting Ground Reaction Force in Sport.
Newby, M.	To See or Not to See.
Ramsbottom, R.	Training Induced Physiological, Metabolic and Morphological Adaptations Associated with Improvements in Running Performance.
Read, B.	Practical Knowledge and the Teaching of Games.
Smith, R. A.	Curriculum Development in Gymnastics.
Stone, P. G.	Some Effects of Spin in Ball Games.
Thomason, H.	Drugs and the Athlete : Fact or Fiction.
Thorpe, R. D.	Sports Technology: A Focus for Sports Science.
Williams, C.	Nutrition and Endurance Fitness.
Williams, D. H. H.	Cardiovascular, Metabolic and Perceptual Changes Related to Age and Physical Performance.

Essays in Physical Education, Recreation Management and Sports Science, December 1988
(Loughborough University). から抜粋。

Costill 教授が、たまたま C. Williams 教授を訪問され、私は初めて同教授にお会いし、寸時を過ごす好運に恵まれた。



写真2 C. Williams 教授との記念撮影

おわりに

ラフバラ大学は、何しろ、海外からの留学生や訪問研究者が多く、そのために留学生の世話をしてくれる担当教官がいる。私の場合にも、Mr. R. E. Jones (スポーツ社会学担当) が宿泊をはじめ日常生活に関する一切の面倒をみてくれた。今のところ、日本からの留学生は少ないようであるが、私と同時期に、福岡大学の村上純講師と琉球大学の高倉実助教授がラグビーのコーチング学の研修のため長期滞在中であった。今後、日本から一人でも多くの研究者がこの大学を訪れることをお勧めしたい。

今回の研修は、あまりにも短期間の滞在であったため、実質的な研究成果をあげるには至らなかった。しかし、多くの研究者との意見交換や友好を深めることができたことは最大の収穫であったと思う。是非もう

一度、訪問してみたい魅力的な大学であることには間違いはない。最後に、本稿が日本の体育・スポーツ関係者にとって、何らかの参考になれば幸いである。

参考文献

- 1) 藤島和孝：海外研修を顧みて，九州の大学体育・スポーツ，第16回九州地区大学保健体育研修会報告，1990. pp.74-75.
- 2) 藤島和孝：ヨーロッパ訪問印象記，健康科学センター年報，12：67-68，1990.
- 3) 金崎良三：北コロラド大学の体育・スポーツ，健康科学，10：161-166，1988.
- 4) Loughborough University of Technology：Undergraduate Prospectus October 1990 entry, McLay and Company Ltd., Cardiff & London, 1990 pp. 1-191.
- 5) 徳永幹雄：イリノイ大学の体育・スポーツ，健康科学，5：87-92，1983.